

古関裕而記念音楽祭とは…

本市名誉市民の古関裕而氏の偉業を記念し、その功績とメロディーを永く後世に伝えるために、平成3年度より毎年開催しています。

2025年は連続テレビ小説「エール」の放送から5年、戦後80年という節目の年です。今年の音楽祭は、ゲストに「エール」に出演された柿澤勇人さん、山田麗さん、ソプラノデュオ山田姉妹の山田華さんを迎え、「エール」で描いた戦時とその場面を振り返りつつ、戦争と平和、そして多くの人々を応援し続けた古関裕而氏の人間愛を考える機会とするとともに、珠玉の古関メロディーや、ドラマにまつわるトークをお楽しみいただきます。ぜひ会場にお越しください。



こ せ き ゆ う じ
古関 裕而

古関裕而（本名、古関勇治）は、明治42（1909）年福島市大町に生まれ、昭和5（1930）年9月に日本コロムビア㈱に作曲家として入社。

作曲作品総数は、5,000曲にもおよび、スポーツ・ラジオドラマ・歌謡曲・演劇・校歌・社歌等、多岐にわたり、不滅のメロディとして人々に愛されています。こうした一連の功績によって昭和44（1969）年には紫綬褒章を受章。また、全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」をはじめ、大学、プロ野球などの応援で歌われる曲も数多く作曲し、音楽を通して日本の野球を盛り上げてきた功績により令和5（2023）年野球殿堂入りしました。

ゲスト

1987年生まれ、神奈川県出身。高校一年生の時に課外授業で観た劇団四季「ライオンキング」に衝撃を受け、俳優の道を志す。2007年、「ジーザス・クライスト=スーパースター」で初舞台。劇団四季を退団後は舞台・映像と幅広い分野で活躍中。主な出演作品に舞台：『海辺のカフカ』（演出：蜷川幸雄）、『愛と哀しみのシャーロック・ホームズ』『オデッサ』（演出：三谷幸喜）、ミュージカル『メリー・ポピンズ』『ジキル&ハイド』『スクールオブロック』『ボニー&クライド』、ドラマ：『連続テレビ小説 エール』、『大河ドラマ 鎌倉殿の13人』、NTV『真犯人フラグ』、TBS『不適切にもほどがある!』CX『全領域異常解決室』、TBS『ライオンの隠れ家』などがある。第31回読売演劇大賞 優秀男優賞、第49回菊田一夫演劇賞受賞。趣味はサウナと芋焼酎。

「丘を越えて」などでヒットを放った歌手。南方の慰問先で、イギリス軍の捕虜になった経験を持つ。戦争を身をもって体験した人に歌ってほしいという主人公・古山裕一の思いを受けて、「長崎の鐘」を歌う。

★連続テレビ小説「エール」 山藤太郎 役

かきざわ はや と
柿澤 勇人（俳優）



やまだ しまい やまだ はな やまだ れい
山田姉妹／山田 華、山田 麗（ソプラノデュオ）



二卵性の双子ソプラノデュオ。二期会オペラ研修所マスタークラス修了後、2017年2月メジャーデビュー。5枚目となるアルバム『ふたりで紡ぐ、やすらぎのハーモニー～若葉のころ～』をキングレコードより発売中。全国各地での演奏活動のほか、NHK「うたコン」などの歌番組にも多数出演。双子ソプラノデュオならではの美しいハーモニーで、オペラアリアをはじめ、童謡・唱歌や歌謡曲の名曲の数々を歌い届けている。2018年10月より逗子市広報大使に就任。

妹の麗は、女優として「エール」に、川野三津代役で出演し、「福島行進曲」を披露した。

古山裕一の盟友・村野鉄男が久しぶりに書いた詞に、裕一が一晩で曲を書き上げる。新民謡の流行に乗って発売された裕一のデビュー作であり、鉄男との初タッグ作のレコード「福島行進曲」に歌声を吹き込んだ。

★山田麗は、連続テレビ小説「エール」 川野三津代 役



ブリーズ
BREEZE 小菅けいこ（ソプラノ）、中村マナブ（テノール）、磯貝たかあき（バリトン）

★連続テレビ小説「エール」 歌唱指導

ジャズボーカルグループ。1993年結成。グループ名の「BREEZE」はイラストレーターのと田誠氏にいただいたもの。レパートリーはジャズのスタンダードナンバーを中心に、ポップス、ミュージカル、日本の楽曲まで幅広い。コンサートや国内各地のジャズフェスティバルへの出演、ジャズクラブでの活動の他、学校コンサートやワークショップも開催しジャズコーラスの普及にも取り組んでいる。2023年11月には結成30周年記念コンサートをサントリーホール・ブルーローズで開催、高い評価を受ける。日本コロムビアから『晩秋の頃（エール劇中歌）』『BREEZE～古関裕而をうたう』をリリース。